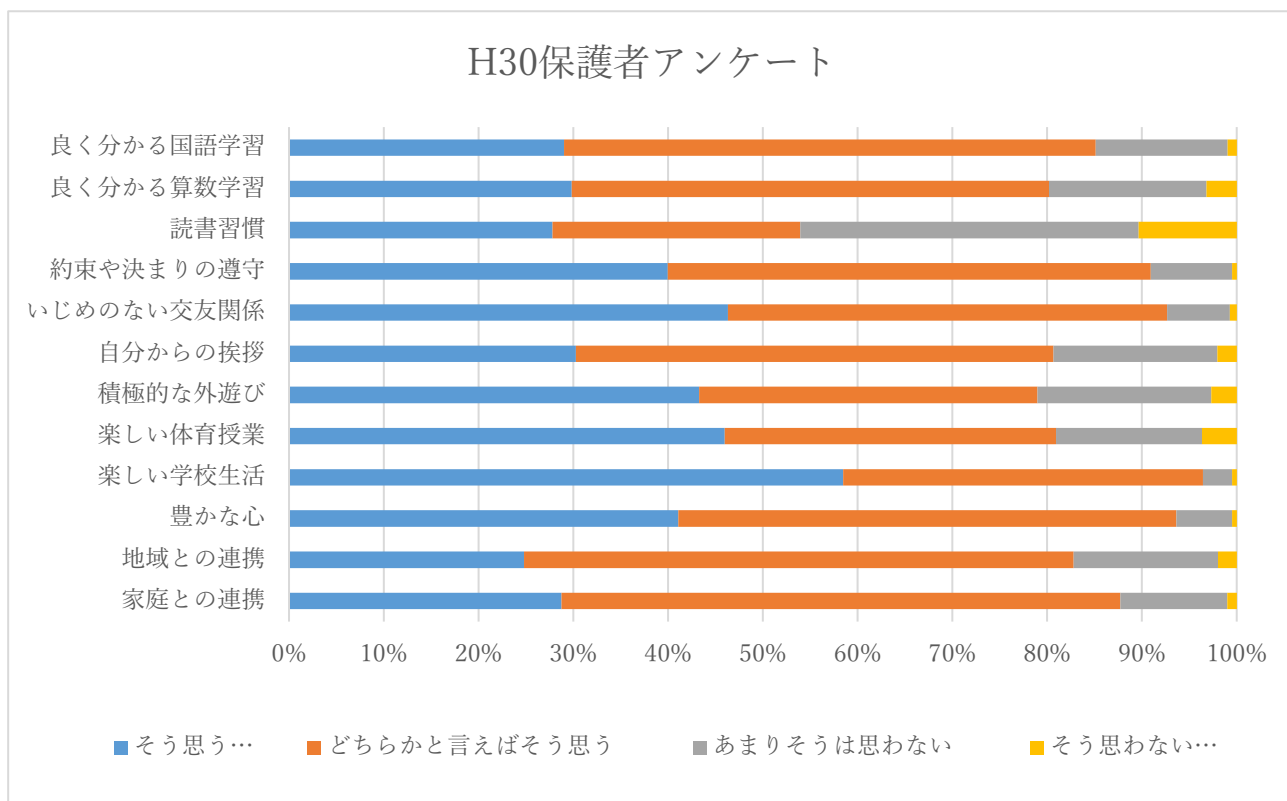


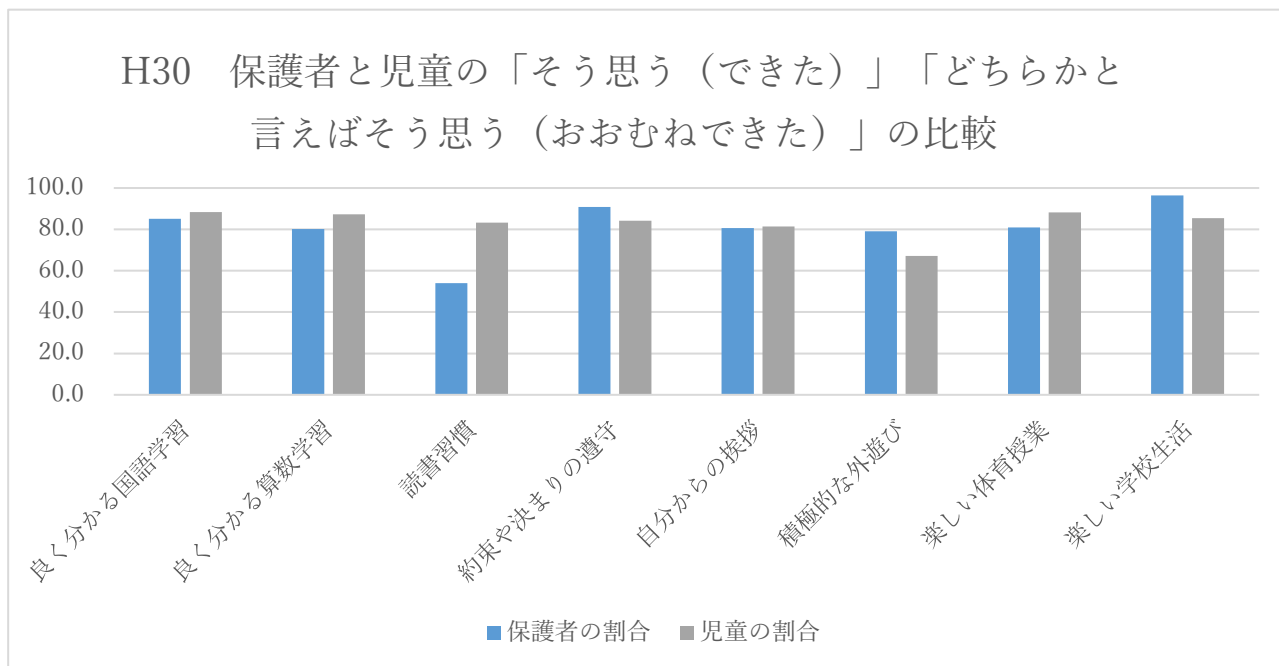
# 平成 30 年度 保護者アンケート結果

(平成 30 年 11 月 29 日に回収)



保護者アンケートは 11 月 22 日から 29 日の一週間で行いました。12 の項目について「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「あまりそうは思わない」「そう思わない」の 4 択で回答いただいております。

また、下表は「そう思う (できた)」「どちらかと言えばそう思う (おおむねできた)」と回答した割合を保護者と児童で比較したものです。



## 1、学習

「お子さんは国語の勉強をよく理解していますか」の問いに対し、85.1%の保護者が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えています。国語の学習はすべての教科につながる学習です。「読む、書く、聞く、話す」は、どの教科においても、新たな知識や技能を習得したり、既知のそれらから新たな事柄を見出したり、見出した事柄を発信したりするときに必要な活動です。本年度の全国学力・学習状況調査では、本校は「書く」力が弱いことが分かりました。しかし、夏休みの作品応募では、作文にたくさんのお子さんがチャレンジしています。宿題として定期的に日記を書く学年、学級がありますが、丁寧に指導していきたいと思えます。

「お子さんは算数の勉強をよく理解していますか」の問いでは、80.2%の保護者が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えており、国語よりも低い値でした。児童は先日の調査で87.3%が「分かる」「どちらかと言えばよく分かる」と答えており、保護者よりも高い数値です。きっと、日頃、お子さんが終えた宿題を保護者の皆さんが見ておられて、「あれ？できてない」と感じられたことがあるのだと思います。「できていないことに気づかない」ことがないように、担任はノートや机間巡視で確認する必要があると思われました。

「お子さんは家で本を読む習慣がついていますか」では、保護者の54.0%しか「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えていません。しかしながら、児童の83.2%は同様の質問に「できた」「どちらかと言えばできた」と答えているのです。大きな差があるのは、保護者がお子さんに期待する読書と子どもが実際に家でしている読書に時間的な差や質的な差があるためと考えます。読書の効用は様々なところで言われていますし、保護者ご自身もそれを感じておられると思います。この時間的、質的な差を縮めるためにも、毎月第3日曜の「家庭の日」に親子読書をされてはいかがでしょうか。親御さんが読書に熱中する姿は、きっとお子さんにも影響を与えたいと思えます。

## 2、生活

「お子さんは決まりや約束、ルールを守ることができますか」には90.9%、「お子さんはいじめたりいじめられたりすることなく過ごしていますか」には92.6%、「近所の人や家族に自分から挨拶をしていますか」には80.7%が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答がありました。

小学校では、集団生活や集団活動、自然体験学習などを通して基本的な生活習慣や社会生活上のルールを身に付けさせることが、豊かな人間性の育成につながります。「学校のきまりを守る」「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいけない」といった規範意識は、長い年月をかけて培われるものであり、学校だけでは高めることができないものです。本校では一年を通して「廊下を歩く」という決まりを児童が守れるよう指導してきました。ご家庭ではいかがでしょうか。きまりを守ることを通して自律心、責任感、正義感は養われます。

また、本校では1年生がうだ・アニマルパークや獣医師による命の授業、4年生が車いす等の介護実習、5年生は山麓公園宿泊研修、6年生は平和学習など、様々な体験学習を行い、豊かな情操と生命尊重の心を育てる学習を行っています。しかしながら、まだまだ子ども同士のトラブルも多く、保護者からの連絡で担任が初めて知ることもあります。いじめや不登校の未然防止、早期発見と早期対応のため、生徒指導上の諸問題が起こりそうなとき、そして起こった時には、特別支援教育担当教員や通級指導教員、スクールカウンセラーを含めた教育相談が迅速に行えるよう、これからも努めていきたいと思えます。

### 3、健康

「積極的に体を動かし、外遊びや運動をしているか」については、79.0%の保護者が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えています。児童は67.1%しかそのように回答していません。子どもたち自身は「少し運動が足りない」と気づいているようです。11月のいこまっ子マラソンでも、8分間を自分のペースで続けて走ることがなかなかできず、途中で歩く児童がたくさんいました。一般的に言われている「積極的に運動する子としない子の二極化」は、本校でも進んでいるように思います。休み時間の外遊びで、運動場に出て遊ぶ子どもたちの顔ぶれは、ほぼ同じように思います。

そこで、健康安全委員会が先日、昼休みに「クラス対抗雑巾がけリレー」を企画しました。こんなイベントがあると子どもたちは喜んで参加します。また、クラス遊びとなると給食の後片付けもそこそこに運動場に飛び出します。きっかけがあると子どもたちは遊びに夢中になるので、学級で、それから学校で、昼休みに定期的に外に出て遊ぶ呼びかけをしようと思います。

「体育の授業を楽しみにしていたか」という質問については、80.9%の保護者が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う。」と答えました。児童アンケートでは88.2%が同様の質問に肯定的な回答をしています。体育授業を通して、自ら進んで運動に取り組む態度やいろいろな運動ができる力の基礎を育てることが、本年度の本校の教員研修の内容でした。おおむね良い結果を得られましたが、これを業前や昼休みの運動にもつなげていくことが、今後の課題です。

### 4、学校生活

「お子さんは、学習や行事など様々な教育活動を通して、楽しく学校生活を送っていたか」には、96.4%の保護者が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えました。学校は、児童の状況や保護者が求める支援を的確に把握し、適時かつ適切な支援が行えるよう、学習だけではなく学校行事にも力を注いできましたが、保護者の皆さんにこのように回答いただけましたことを大変感謝しております。しかし、児童が同様の質問に肯定的に答えた割合は85.5%で、10ポイント以上の差があります。ご家庭でのお子さんの様子からは見えにくい「学校生活の辛さ」、教職員が気づかない「学校生活の悩み」があるのではないかと、この結果から思いました。家庭と学校が連携を図りながら、この問題を解決していきたいと思しますので、お子さんのことで「おかしいな」「何か変だな」ということがありましたら、担任までお知らせいただきますよう、よろしく願いいたします。

「お子さんは様々な体験を通して豊かな心を身に着けたか」については93.6%、「学校はボランティアや地域の皆さんの力を活かした教育を行ったか」については82.8%の保護者が、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答しました。本年度は学校ボランティアとして70名の方に、登下校の見守りや家庭科、英語の学習の補助、読み聞かせなどの読書教育の推進にご尽力いただいています。学校ボランティアの方々との交流が、子どもたちの心の成長につながったことをうれしく思います。優しく見守っていただけただからこそ、今の子どもたちがいますので、今後とも「地域ぐるみで課題に取り組む仕組み」を大切にしたいと考えます。

「学校は教育方針や教育活動を分かり易く伝え、家庭と協力を図ろうとしたか」は87.7%の保護者が、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答しました。本年度、本校は「学校評価制度の推進」を教育活動の重点課題として掲げました。そのために、学校だより、学年だより、学級通信で児童の様子を伝え、学校の様子を知っていただくとともに、それが学校運営の改善につながるよう、取り組んできました。保護者アンケートもそのひとつです。ご家庭の皆様のご意見を真摯に受け止め、改善に努め、開かれた学校づくりを今後とも推進していきたいと思います。